



荒澤 広光 議員

専門職大学開学に向けて町の対応は 大学生の受け入れを全面的に支援する



大学建設に向けて工事が始まった農林大学校敷地

質問 山形県では県立農林大学の敷地に、農林業を牽引し高度な人材を育成する、東北農林専門職大学（仮称）を令和6年4月開学に向けて準備しています。県が発表した経済効果

は、学生や教職員の飲食や居住等の消費、大学と企業との研究開発による売上増等、年間で令和6年度は5億円強、全年度がそろえば令和9年度は10億円強、開学10年目には19億円強の経済効果が生

ずると推計しており、専門職大学から距離的に一番近い本町でも、通学する学生を応援するため、居住のため遊休施設、民間企業の寮、空き家等の利活用が可能か否か積極的に調査を行い、受け皿づくりが必要だと思いますが、町としての考えを伺います。

隣地実務実習が行われる計画になっていますが、現時点での受け入れ先は最上地域全体で68経営体で、そのうち本町は16経営体と最も多い状況です。令和6年4月以降の開学に向けて準備を進めてまいります。

入学定員

	入学定員 (1年次)	編入学定員 農林大から(3年次)	収容定員 (4学年全体)
農業経営学科	32名	若干名	128名+α
林業経営学科	8名	若干名	32名+α
合計	40名	若干名	160名+α

※農林大学校からの内部進学枠を含む3年次編入学の定員を加えることとする。

大学開学時、各学科の入学定員

町長 専門職大学の開学に向けては全面的に支援したいと考えており、町では令和3年度に役場内に横断的なプロジェクトチームを設置し、将来的には舟形町で就農して頂くことも視野に入れながら、必要な支援を検討してまいります。これまで進めてきた取り組みは、県と町が連携し、実習先である農業経営体の選定作業を行っております。専門職大学は講義だけでなく、学内及び学外で行われる豊富な実習が特徴となっております。実際に経営体へ実習に行き、2年生から4年生において、

町長 学生を積極的受け入れ、舟形町に住んでいただく事が必要だと思っております。空き家をリフォームしてのシェアハウスは、例えば一つの地域内に、1棟だけでなく複数の建物を準備して学生村のような事ができれば良いのではないかと考えております。学生の

好みの民間アパートを寮として造っていただく方法もあるかと思えます。これから役場内に設置する横断的なプロジェクトチームの中で、全ての可能性を排除しないで学生受け入れに向けて積極的に検討してまいります。



斎藤 好彦 議員

北のゲートウェイ構想の実現を 協議に参加し早期の整備推進に取り組む



開業3年で来場者500万人達成「道の駅 米沢」

質問 東北中央自動車道の整備が日増しに進み、最上地域と首都圏が高速道路により直結する時が間近となって来ました。この地域が高速道路ネットワークに組み込まれることにより従来に増して人や物の往来が拡大し、産業発展、観光振興さら

には定住人口の拡大などが期待されます。地域としてこの機会をどのように活かすかが課題であり、地域資源の発信拠点としての「道の駅」の整備が必要であると考えます。現在、道の駅構想については「もがみ創生北のゲートウェイプロジェクト検討会」で協議して

が設置され、現在の管内の副市町村長を中心とした「施設整備等に関する分科会」で検討が行われているところです。分科会では、東北中央自動車道の整備状況や道の駅整備による観光、産業分野等への波及効果をはじめ、自治体の担当者を招いて県内の道の駅の取り組みを聞くなど、情報を共有しつつ、道の駅整備の必要性と、施設の概要、整備費用、運営主体等について意見を交換して

温度差があるのが現状であり、引き続き協議が継続される見込みであり、今年度からスタートした第7次総合発展計画の短期アクションプランにおいて、基本目標3の産業経済の分野で、主な事業・取り組みの中に「県最上総合

支庁と連携した最上地域の玄関口となる道の駅の検討」を盛り込むなど、今後も町の活性化を念頭に、引き続き最上地域の玄関口となるゲートウェイ型の道の駅の整備についての協議に参加し、早期の整備推進に取り組んでまいります。



リニューアルオープンした「道の駅 さがえ」

町長 最上地域の玄関口としての道の駅の整備については、県最上総合支庁が事務局となり、「もがみ創生北のゲートウェイプロジェクト検討会」

では、最上8市町村が一体となって推進すべきとの点で一致しているものの、独自の整備構想を持っている市町村があるなど、各市町村の意識には

支庁と連携した最上地域の玄関口となる道の駅の検討」を盛り込むなど、

支庁と連携した最上地域の玄関口となる道の駅の検討」を盛り込むなど、